

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28246

パーソンズ先生のジュニア英会話教室－英語であそぼう。Fun English！－



開催日：平成28年8月2日（火）  
実施機関：阪南大学50周年記念館  
（実施場所）（スチューデント・コモンズ）  
実施代表者：Martin Parsons（流通学部・准教授）  
受講生：小学生54名  
関連URL：  
<http://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/mrrf43000001lqsn.html>

### 【実施内容】

#### ◆本プログラムのねらいと工夫

本プログラムは、教科内容と外国語学習を統合し、質の高い外国語教育の実現を目指す「内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning）」を通じて、多くのアクティビティを体験学習してもらうことをコンセプトとしている。そのために、英語で自分の意見や考えを表現する楽しさを感じてもらえるような3部構成で実施した。また、保護者に対してもアクティビティの合間に同時並行で英語教育の重要性について簡単な講演を行った。冒頭の講義では、15と50の違いや簡単な発音練習も交えながら、英語で講師、学生スタッフの自己紹介、緊張感をほぐすために受講生同士でも簡単な英語での自己紹介を行った。アクティビティ①では、簡単な計算や、ビンゴゲームを行った。具体的には、今回講師は、3名でサポートしているが、いずれも出身国が異なる。実際の国で使われている紙幣（ドル、元）を見せ、\$1はいくらなのか、簡単な計算をグループで行った。また、生まれた月×2+5×50+生まれた日-250等四則演算を組み合わせると合計を求める等のゲームをした。アクティビティ②では、mapを使って、「Where is it?」ゲームを行った。受講生の集中力を途切れさせないように早く回答出来たチームには、prizeが与えられるなど、スピード感のあるレッスンを心がけた。最後のアクティビティ③では、受講生が店長と客に分かれてショッピングを行った。大人でも英語でショッピングを行うのは決して簡単なことではない。しかしながら、商品の絵を描く、値段を付けるといった創作的なことは受講生自らが手がけ、独自に作成したおもちゃの紙幣を使って英語を理解し、自己表現することの楽しさを感じてもらった。本講座では、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった能動的活動を多く取り入れることで英語の面白さを体感的に深めていってもらえたのではないかと考えている。



実習①の様子1



実習①の様子2



実習②の様子1



実習②の様子 2



実習③の様子 1



実習③の様子 2

#### ◆当日のスケジュール

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:10 開講式、科研費の説明・諸注意
- 10:10～10:40 講義「英語を楽しく学ぶコツを伝授します」
- 10:40～10:50 休憩
- 10:50～12:00 アクティビティ①「英語で算数  
Let's do maths in English.」
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:30 アクティビティ②「阪南大学ってどんなところ？  
Let's learn about Hannan Univ.」
- 14:30～14:40 休憩（クッキータイム）
- 14:40～16:00 アクティビティ③「ショッピングを楽しもう  
Let's go shopping!」
- 16:00～16:10 休憩
- 16:10～16:30 アンケート実施、修了式「ジュニア英会話マスター」授与
- 16:30 終了・解散



保護者への講演

#### ◆事務局との協力体制

実施代表者は実施1年前から事務局担当者と連絡を密にして、基本プログラムの設定と参加者の理解を深めるためにはどのようなことに留意し、どのような工夫が必要かを議論しながら相互理解と信頼関係を構築していった。本プログラム実施にあたって委託費の管理については、実施担当部局である研究助成課において専用の帳簿を備えて、支出の金額・内容を記帳しており、その執行に関しても財務課が管理をおこない把握することで、プログラムをおこなう上で十分な協力体制が機能していたと思われる。

#### ◆広報活動

実施担当者と実施担当部局（研究助成課）が広報担当部局と協力して、大学の広報誌、ホームページに募集案内を掲載した。また、近隣の小学校にポスター及びリーフレットを配布するなど積極的な広報活動を実施した。また、市役所の広報誌、駅貼りポスター広告で対象者（小学生）に限らず広く一般に科研費の研究成果がいかに本プログラムに活かされているかを周知させた。

#### ◆安全配慮

本年は、異常気象といえる猛暑日が続いていることから特に熱中症による体調不良やノロウイルス等中毒対策に十分配慮し、飲料水の配布、空調設備のある部屋での昼食をおこなった。プログラムではすべての行動について教職員やアシスタント学生が常に付き添い、プログラム時間内（開始から解散まで）には傷害保険に加入することで、十分な安全体制を確立した。

◆今後の発展性、課題

定員大幅に上回る61名の申込みがあり、今回の「英語教育」に関するテーマは、非常に小学生の興味が高いことがわかった。また、アンケート結果からも本講義の満足度や有意義性が非常に高いことがわかった。今後の課題としては、過去ひらめき講座を何度も実施させて頂き、今回初めてアンケートを全て回収することが出来なかった。次回はアンケート回収に充てる時間を十分取るとともに、回収方法についても工夫をしたい。

【実施分担者】 Mark Daniel Sheehan 阪南大学国際コミュニケーション学部・教授

王 凌 阪南大学経済学部・准教授

【実施協力者】 12名

【事務担当者】 戀川 照義 研究助成課・係長